

令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立城東高等学校 学校運営連絡協議会 (全日制課程)

(2) 事務局の構成 副校長＝事務局長、総務部員2名 計3名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭 (教務担当)、主任教諭 (生活指導担当)、主幹教諭 (進路指導担当)、主幹教諭 (総務担当)、主幹教諭 (保健担当)、主任教諭 (記録担当) 計9名

(4) 協議委員の構成

大山 秀治 (大島三丁目町会 会長)、西田 明史 (江東区立大島第二中学校 校長)、渡邊 賢 (東京都立大学教授)、足立 圭一 (警視庁城東警察署生活安全課少年係長)、高橋 浩紀 (都立城東高等学校同窓会城友会 会長)、海老原 信行 (都立城東高等学校PTA後援会城親会 会長)、鬼塚 宏予 (都立城東高等学校PTA 会長) 計7名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会 (第1～3回) の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 6月21日 (土) 14時00分～15時00分

出席者 大山 秀治、西田 明史、渡邊 賢、高橋 浩紀、鬼塚 宏予、内部委員9名

欠席者 足立 圭一、海老原 信行

内 容 学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等の報告

第2回 10月25日 (土) 13時30分～14時30分

出席者 大山 秀治、渡邊 賢、高橋 浩紀、鬼塚 宏予、内部委員9名

欠席者 西田 明史、足立 圭一、海老原 信行

内 容 これまでの教育活動に関する報告

第3回 2月14日 (土) 13時30分～14時30分

出席者 大山 秀治、椎名 佳子 (代理出席 江東区立大島第二中学校副校長)、渡邊 賢、高橋 浩紀、海老原 信行、鬼塚 宏予、内部委員8名、丸山 貴雄 (代理出席 生活指導担当)

欠席者 足立 圭一

内 容 今年度の教育活動および本校の現状と課題等の報告、学校評価に関する報告

(2) 評価委員会の開催日、内容

10月25日 (土) 今年度の学校評価の実施に向けた検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価 (学校評価報告)

(1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模 (カッコ内は昨年度数値)

- ・ 12月 全校生徒 対象：988人 回収：755人 回収率： 76% (100%)
- ・ 12月 保護者全員 対象：988人 回収：685人 回収率： 69% (70%)
- ・ 12月 教職員 対象： 77人 回収： 77人 回収率： 100% (100%)

(3) 主な評価項目

- ・ 学校全般、学習指導、進路指導、生活指導、保健・安全管理、家庭・地域との連携 など
- ・ 生徒・保護者・教職員全員が Forms による回答を実施した。

(4) アンケート集計結果

別紙1 参照

(5) 評価結果の分析と考察

ア アンケートの回収

今年度は、昨年度までの紙によるマークシートによる回答から Forms による回答に変更して実施した。保護者の回収率は昨年度並みであったが、全校生徒の回収率が100%から76%と大幅に下がってしまった。アンケートの回答期間を2週間設けて実施を試みたが、クラスによっては実施を予定していた日にインフルエンザによる学級閉鎖で実施することができなかつたりと、運用面に課題が出てしまった。一方で保護者については、クラッシーで通知して Forms による回答で実施したが、昨年度並みの回答率を得ることができたので、一概に Forms による回答の実施方法に問題があったわけでもなさそうであるので、来年度は定期考査の最終日のホームルームの時間に一斉にアンケートを実施する等、運用面について再考していく。

イ 各項目について

① 高校生活全般について

生徒・保護者・教員のすべてにおいて、昨年と同様に95%以上の肯定的な評価となった。

② 教育目標について

昨年と比較して生徒の肯定的な評価が85%から92%に上がった。また、保護者からも88%と肯定的な評価を得ることができた。

③ 授業について

昨年度に引き続き、生徒の評価が90%以上の肯定的な評価となった。

④ 進路指導について

概ね昨年と同様の結果であるが、生徒の肯定的な評価が95%を示すなど、進路指導が計画通り十分に実施できていることが読み取れた。一方で、保護者の「わからない」との回答が14%あったことに課題が残った。

⑤ 補習・補講について

概ね昨年と同様の結果であった。今後もすべての教員が生徒にとって分かりやすい補習・補講計画を示すことを実行していく。

⑥ 学校行事について

生徒・保護者で98%の肯定的な評価となり、近年、肯定的な評価を得られている。

⑦ ホームルーム活動について

生徒で90%の肯定的な評価となった。一方、教員の肯定的な評価が46%にとどまっていることに課題が残った。

⑧ いじめ等について

いじめについては学期ごとに全生徒を対象としたアンケート調査を実施してゼロを確認しているが、不快な思いをした生徒がわずかにいることも考えられる。全ての生徒が不安なく学校生活を送れるよう、適切な対応を続けていきたい。

⑨ 部活動について

昨年と同様に高い肯定的な評価結果であるが、生徒の90%の肯定的な評価が城東高校の部活

動の人気の高さを示していると考えられる。生徒の部活動の両立については75%となっており、今後も「妥協なき文武両道」を本気で取り組む生徒を増やしていきたい。

⑩ 体罰について

いじめ・体罰はあってはならないこととして、教員に対する啓発や研修を継続して行っている。が、保護者からの「わからない」との回答が35%あったことに課題が残った。

⑪ 心と体の健康について

生徒の心と体の問題についての早期発見と対応の徹底が、生徒93%、教員80%の肯定的な評価からも浸透していることがいえる。今後も生徒の観察や面談などを通じて、学級担任や部活動顧問を中心に学校としての取り組み姿勢を強めていく。

⑫ 校内の安全・防災について

保護者からの「わからない」との回答が27%あったことは課題である。防災教育についてはその内容が地域との連携を求められるようになっており、ここに保護者との連携を加えて指導の充実につなげていきたい。

⑬ 主体性を伸ばす教育について

保護者の肯定的評価については昨年度並みであったが、生徒の肯定的な評価が92%から95%、教員が77%から84%に上がった。今後も、校内における生徒の様々な活動の場面はどれも成長につながる機会になり得ることを意識して、生徒が受け身の姿勢にならぬよう指導を充実させていきたい。

⑭ 美化活動について

生徒は昨年と同様の結果となっているが、教員の肯定的な評価が86%から91%に上がった。一方、保護者からの「わからない」との回答が26%あったことは課題である。

⑮ その他

昨年と比較して特に大きな変化は見られなかったが、保護者・地域との連携についての肯定的評価が上昇するよう努める一方で、ライフ・ワークバランスについての肯定的評価も上昇するよう、業務の縮減と合理化を図っていきたい。